

# チャンス・チャレンジ・チェンジ

秋田県立養護学校天王みどり学園 加賀谷 勝



## 診断説明のメリットとデメリット



- ・本人に診断名を告知することは、自己理解を促すためにも必要である。しかし、メリットとデメリットの両方が考えられる。診断説明は一連の支援のステップに過ぎない。その後の支援が適切でなければ、子どもを自己否定へと追い立てる通告にしかならない。

### 〈診断されてよかった理由〉

- ・人格が悪いのではなく、自分を卑下することはないことが分かった。
- ・生きづらさの原因が分かり、具体的な対策を考えられるようになり、自分に対して罪悪感をもたずにすむようになった。家族が障害に対して理解してくれるようになった。
- ・人とうまくいかなかったことが自分のせいではなかったことが分かり、周りや自分の接する人に対して医学的な問題で人とのコミュニケーション上の困難があることを伝えられる。
- ・自分の抱えている問題が具体的になった、努力不足ではなく脳の機能障害だと分かった。
- ・自分は普通でないと感じていたのでその原因が分かった。

### 1 メリット ※参考文献 「自分のことのおしえ方」―診断説明・告知マニュアル― 吉田 友子 著

#### (1) 安堵し、罪悪感から解放される

- ・自分のせいではなかった、自分と同じような感じ方・仲間がいるのだと知ることは安堵をもたらす。周囲に違いや数々の失敗は自分の「努力不足」ではないと分かり、罪悪感恐怖から解放される。

#### (2) なぜスキルを学ぶ必要があるかを、正しく理解できる

- ・人と関わるコツや気持ちをコントロールするスキルを学ぶ必要性を知ることができる。

#### (3) 自己理解が深まる

- ・特性を言葉で確認することは、本質に気付きにくい子どもの想像力の弱さを補うことができる。

#### (4) 自己の存在に関する秘密がなくなる

- ・「自分には何か悪いものがある」という否定的自己像を回避できる。

#### (5) 子どもと親の関係がオープンになる

- ・診断説明という共同作業を通じて、子どもと親・専門家はより強固なチームを組むことができる。

### 2 デメリット

#### (1) 二次的な問題に発展する可能性がある（抑うつや退行等）

- ・気持ちが沈み込んだり、母親への甘えが強まったりする。この反応は「自分に関する重要な事柄を受け止めるために行うステップ」でもある。

#### (2) 自己否定感を強め、支援を受け入れること拒否する

- ・必要な支援を拒否し、精神的に不安定になる。

#### (3) 将来に対する不安が強くなる

- ・現在の適応状況が不安定で達成感が乏しく、不安が強いことの反映でもある。



### 3 診断説明後の支援

#### (1) 具体的な支援を継続する～「やりようはある」「短所は長所でもある」という実感をもたせる。

#### (2) キーワードの提供を重ねる～本人の特性をキーワードで繰り返し伝え、自己を振り返る機会を設けて自己理解を促す。

#### (3) 主体的に情報を活用できるように支援する～自分で苦手さをカバーしたり、他の場面でも実践したりする支援を心掛ける。

子どもの考え方を変えるには、「①本人の話や言い分を共感的に聞く②本人が気付けるように論理的で具体的なアドバイスをする③しばらく時間をおく④自分でアドバイスを受け入れ、自覚・納得して考え方を变える」、という形になりやすい。納得するまでに時間が必要であり、できたという実感を伴わせることが大切である。「支援は気づきと自覚により始まる！」